

第2回 カーボン・オフセット大賞 応募用紙①

応募者に関する情報

記入日：2012年11月29日

応募者情報	
応募 団体名	(フリガナ) カブシキガイシャ トウホクギンコウ
	(団体名) 株式会社 東北銀行 <small>※協働プロジェクトでの応募の場合は、代表団体名以下プロジェクトに参加している主な団体名をご記入下さい。</small>
応募 担当者 連絡先	団体名： 株式会社 東北銀行
	所在地： 〒020-0023 盛岡市内丸3番1号
	部署名： 戦略統括部
	役職名： 副調査役
	氏名： 小松香奈子
	TEL： 019-651-6161 FAX： 019-651-4310
	E-Mail： 例：komatsu@tohoku-bank.co.jp
ホームページ	http:// www.tohoku-bank.co.jp/
<p>応募団体の主たる事業（※行政の場合は、記入は不要。最大2000字入力できます。詳細は別紙添付可）</p> <p>東北銀行（とうぎん）は、岩手県盛岡市に本店を置き、岩手県、宮城県を中心に56カ店2出張所で営業しております（平成24年10月末現在）。</p> <p>戦後復興期、県内経済をもっと活力のあるものにしなければならないという岩手県民の強い気持ちを受け、商工会議所が中心となって設立された戦後初（1950年）の普通銀行です。とうぎんの経営理念である「地域金融機関として地域社会の発展に尽くし共に栄える」は、そのような戦後復興期における中小企業への安定資金供給を使命として設立された背景から生まれたものであり、経営理念であると同時に「創業精神」でもあります。</p> <p>東日本大震災後も、経営理念のもと、中期経営計画で「郷土の成長を育む農耕型の経営を実践する銀行」を目指すべき姿として、地域の復興に向け取り組んでおります。</p> <p>また近年、環境ビジネス支援や岩手県産J-VERの購入などを通じ、地域金融機関として地域の環境負荷の軽減にも取り組んでおります。営業活動や地域イベントで排出されるCO2をカーボン・オフセットすることで、温室効果ガスの排出を地域で自己完結する「地域解決型地球温暖化対策（地産地消）」を目指しています。</p>	

第2回 カーボン・オフセット大賞 応募用紙②

応募するカーボン・オフセットの取組についての基礎情報 (1次審査での重点ポイント)

応募に関して、写真（JPEG 等）や概要図（PDF 等）は別途メール等で事務局までお送りください。
応募の際にいただいた資料は返却いたしません。あらかじめご了承ください。
※記述欄が不足する場合は、用紙の追加も可能ですが、応募用紙②全体で A4 用紙 3 ページ以内にまとめてください。
※第 1 回カーボン・オフセット大賞の 1 次審査を通過した事例一覧もご参照ください。

URL : http://www.carbonoffset-network.jp/award1st/entry_datalist.html

1. 応募するカーボン・オフセット活動の名称・タイトル

カーボン・オフセット認証を取得済みの活動については、認証番号もあわせて記載下さい。

**第 71 回一関・盛岡間駅伝競走大会（日報駅伝）におけるカーボン・オフセット
(カーボン・オフセット認証番号 C02-0014)**

2. カーボン・オフセット活動の概要

<カーボン・オフセットの分類>

以下の 4 分類からひとつ選び、□に✓をつけてください。

- 商品使用・サービスオフセット
- 会議・イベントオフセット
- 自己活動オフセット
- 自己活動オフセット支援

【参考】

環境省による「カーボン・オフセット第三者認証基準(Ver. 1.1)」に基づく分類
<http://www.jcs.go.jp/pdf/document/kijun.pdf>

<カーボン・オフセット対象・・バウンダリ>

カーボン・オフセットの取組内容に関して、オフセットの対象範囲をお書きください。

【例】 3①-1 に記載した算定範囲と同じ or 算定範囲のうち、○○、○○の部分に関してカーボン・オフセットの対象とした

3①-1 に記載した算定範囲と同じ

<カーボン・オフセットの取組の実施期間>

カーボン・オフセットの実施期間についてお書きください。その際、2010 年 1 月 1 日以降にカーボン・オフセットを実施継続している事例または 2010 年 1 月 1 日以降にカーボン・オフセットを開始した事例であることが応募にあたっての必要要件となりますので、御注意ください。

【例】 2009 年 4 月 1 日から 2009 年 10 月 31 日までが取組の実施期間の場合⇒応募資格外
2009 年 4 月 1 日から 2012 年 3 月 31 日までが取組の実施期間の場合⇒応募資格有
2012 年 3 月 15 日以降、現在も継続中（終了時期未定）の場合 ⇒応募資格有

2012 年 10 月 1 日～2012 年 11 月 30 日（予定）

<カーボン・オフセットの取組に関する情報提供方法>

自社 HP 等、カーボン・オフセットの取組をウェブに掲載されている場合は、URL を記載願います。

岩手県ホームページ

「第 71 回一関・盛岡間駅伝競走大会（日報駅伝）」を応援しましょう！！

<http://www.pref.iwate.jp/view.rbz?nd=4144&of=1&ik=1&pnp=4127&pnp=4129&pnp=4144&cd=42452>

- ・岩手日報による PR：地元の新聞「岩手日報」（発行部数 208,473 部、日本 ABC 協会の調査より）において、2012 年 11 月 14 日、15 日、18 日及び 22 日の紙面で駅伝開催告知の際に、認証ラベルを使用し PR しました。
- ・テレビ番組での紹介：地元テレビ局 IBC 岩手放送で、2012 年 10 月 24 日から毎週水曜日 18:55~19:00 全 5 回放送されたミニ番組「確かな絆～日報駅伝への道」において、当行が駅伝に協賛しカーボン・オフセットする旨の CM を合計 10 回放送しました。そのほか、11 月 19 日から大会前日までの間に、同 CM を 8 回放送しました。
- ・ラジオ中継での紹介：大会当日のラジオ中継において、当行が駅伝に協賛しカーボン・オフセットする旨の CM を 3 回放送しました。
- ・毎年日報駅伝を沿道で応援する方々向けに作成している応援小旗 5,000 本に、カーボン・オフセット認証ラベルを付けて、市民の皆さまに配布し、カーボン・オフセットを PR しました。

3. 1 次審査項目

①自らの行動に伴う温室効果ガスの排出量の認識

カーボン・オフセットの取組内容に際して、排出量の算定についてお書きください。

（自己活動オフセット支援以外の場合）

①-1 排出量の算定方法及び算定範囲

【例】製品○○○について LCA を実施、排出量は 1 製品あたり○○○kg

【例】イベント開催における、関係者の交通移動、会場の使用電力量、廃棄物処理に伴う排出量、算定方法については環境省の算定ガイドラインを用いた。総量○○トン

排出量の算定方法及び算定範囲は以下の通りで、総 CO2 排出量は 5.4 (t-CO2)

◇ 駅伝大会の案内や応援に必要となる紙類の印刷

【算定方法】 ※環境省の算定ガイドラインを参照

紙の印刷における CO2 排出量 (t-CO2)

= カラー複合機の稼働時間 (週) × カラー複合機の TEC 消費電力 (kWh/週) × 東北電力の排出係数 (t-CO2/kWh)

= 0.005 (t-CO2)

◇ 運営車両の移動

【算定方法】 ※環境省の算定ガイドラインを参照

運営車両の移動における CO2 排出量 (t-CO2)

= ガソリン使用量 (L) × ガソリンの単位発熱量 (GJ/L) × ガソリンの排出係数 (tC/GJ) × 44 ÷ 12
+ 軽油使用量 (L) × 軽油の単位発熱量 (GJ/L) × 軽油の排出係数 (tC/GJ) × 44 ÷ 12

= 5.3 (t-CO2)

※燃料使用量 (L) = 車両台数 (台) × 片道距離 (km) × 片道移動回数 (回) ÷ 車両燃費 (km/L)

①-2 排出量の算定に利用したデータ種類

【例】電力使用量、ガソリン使用量、

◇ 駅伝大会の案内や応援に必要となる紙類の印刷

- ・ カラー複合機の電力使用量 (稼働時間・TEC 消費電力)

◇ 運営車両の移動

- ・ ガソリン使用量 (車両台数・片道距離・片道移動回数・車両燃費・燃料の単位発熱量)

(自己活動オフセット支援の場合)

①-3 利用者に帰属する排出対象活動

【例】利用者の1日の日常生活に伴う排出量 ○○kg

【例】購入製品使用時に伴う利用者に帰属する排出量のうち購入後1年分にあたる、○トン。商品販売時に顧客に提示。

①-4 利用者に対する排出量の提示方法

②排出削減努力の実施

取り組まれた排出削減努力について該当とする取組に✓をつけてください(複数可)。なお、取組のアピールも含めた詳細については、応募用紙③「1.002 排出削減努力と関係者の理解や協力」に詳しく記載して下さい。

節電 節水 廃棄物の減量化 省電力機器の導入 公共交通機関の利用・呼びかけ

その他(具体的に

)

③オフセットの手続き

<カーボン・オフセットに利用したクレジット等の種類>

使用したクレジット等の種類をお書きください。なお、異なるクレジットを併用した場合の各割合(%)についても記載してください。【例】J-VER(○%)、CER等(△%)など

オフセット・クレジット(J-VER) 100%

<カーボン・オフセットに利用したクレジット等のプロジェクト名称>

使用したクレジット等の具体的な温室効果ガス削減・吸収プロジェクト名をお書きください。

記載例: ○○地域連携による間伐促進型森林づくり事業、
○○による木質ペレットボイラーでの温室効果ガス排出削減事業、
○○国における風力発電プロジェクト CDM プロジェクト番号・・・

岩手県有林における森林吸収量取引プロジェクト
三田農林株式会社間伐促進型プロジェクト

<カーボン・オフセットに利用したクレジットの無効化に関する状況>

取消、償却実施年月、もしくはその予定についてお書きください。

2012年9月26日 無効化

第2回 カーボン・オフセット大賞 応募用紙③

応募するカーボン・オフセットの取組についてアピールポイント (本審査での重点ポイント)

応募に関して、写真(JPEG等)や概要図(PDF等)は別途メール等で事務局までお送りください。

応募の際にいただいた資料は返却いたしません。あらかじめご了承ください。

※記述欄が不足する場合は、用紙の追加も可能ですが、応募用紙③全体でA4用紙4ページ以内にまとめてください。

※第1回カーボン・オフセット大賞の1次審査を通過した事例一覧もご参照ください。

URL : http://www.carbonoffset-network.jp/award1st/entry_datalist.html

1. CO2 排出削減努力と関係者の理解や協力

- ①CO2 排出削減努力の項目（内容）について、期待した効果とその成果について具体的かつより定量的にアピールしてください。
- ②CO2 排出削減努力の必要性・重要性について関係者の理解と協力を得るにあたっての工夫とその成果をアピールしてください。

紙の印刷時にかかる電力使用量について、極力モノクロ印刷に努めるよう広報物を工夫するとともに、印刷物などの作成物に余剰が出ないように、前年度の配布枚数等を考慮して部数調整し作成しました。

また、駅伝の走者を応援する際に沿道の観客が使用する応援小旗は、持ち手の部分を従来のプラスチック製から県内森林の間伐材を利用した木製に替えて作成することで、CO₂の排出を抑えました。応援小旗の配布時には、その場に捨てないで自宅に持ち帰って捨ててもらおうよう観客に呼びかけたり、応援小旗の中にも応援小旗を捨てないようお願い文を入れ、観客に協力を促し、環境に配慮した取り組みを行いました。

駅伝を運営する団体や担当者に対して、今回の取り組みを説明するとともに、車両での移動に関して極力同乗し使用車両を減らしてもらうなど、CO₂ 排出削減と一緒に取り組んでもらうよう働きかけました。

2. カーボン・オフセットの内容

- ①自らが行うカーボン・オフセットの取組の意義・重要性について、社会にもたらす波及効果などの観点も踏まえてアピールしてください。
- ②自らが行うカーボン・オフセットの取組の継続性、展開への意欲や見通しについてアピールしてください。

地域の駅伝競走大会においてカーボン・オフセットする容易さや地球温暖化対策への取り組み促進効果が広く一般認識されることをねらいとし、日本全国各地域で実施されている駅伝競走大会でも同様の取り組みがなされるような内容としました。

具体的には、駅伝大会で必ず排出され、参加者や観客等にも分かりやすい「紙類の印刷に伴う CO₂ 排出量」と「車両の移動に伴う CO₂ 排出量」を算定範囲に絞ることで、カーボン・オフセットに取り組む際に懸念される煩雑な算定範囲の確定や算出方法を最小限に抑えることができました。

来年度以降も環境に優しい駅伝大会を運営するため、今年度の実績をふまえ様々な環境への取り組みを進めていく予定です。

3. 環境、地域・社会、産業振興等の貢献性

次の①～④のいずれか（複数可）の観点での貢献性についてアピールしてください。

- ①自らが行うカーボン・オフセットの取組から波及する河川・湖沼をはじめとする内水面や土壌・大気あるいは生物多様性といった自然環境への配慮や保全などの環境の面での貢献
- ②自らが行うカーボン・オフセットの取組から波及する地域・社会への経済的便益や効果、第1次産業と他産業との連携促進、地域活性化や一村一品活動の拡大などの地域・社会の面での貢献
- ③自らが行うカーボン・オフセットの取組から波及する中小企業振興や産業基盤にとって重要な安定的なエネルギー供給・確保、環境と調和した市場の牽引などの産業振興の面での貢献
- ④自らが行うカーボン・オフセットの取組から波及する国際貢献等、さまざまな面での貢献

本駅伝大会は、東日本大震災で大きな被害を受けた大船渡市、宮古市、釜石市など、沿岸部の市町村からも参加し、県民一体となって、絆を深める象徴的な大会であり、大震災から復興に向かう県民の姿を県内外にアピールする一環として、利用するオフセット・クレジットを県内産 J-VER と被災地産 J-VER（陸前高田市）としました。

岩手県有林の間伐促進による J-VER を活用したことで、被災地域における森林や林業の認知向上を図り、沿岸地域の復興の重要性を再認識する取り組みができました。

また、環境省が推進する「カーボン・オフセット認証」を取得し、イベントで取り組まれるカーボン・オフセットがより信頼性の高い取り組みとなり、地球温暖化対策の必要性を訴えやすい大会となりました。

毎回作成している応援小旗は、昨年実績などから作成する本数を検討し、余剰が出ないよう適切な本数を作成し、CO2 排出を抑える取り組みになりました。さらに、広告代理店等関係者と相談し、従来プラスチック製だった持ち手を、県内森林の間伐材（ブナ）を使用し作成しました。これにより県産間伐材を有効活用することができ、間伐材活用の一例となりました。

4. 普及啓発の創意工夫とその成果

- ①自らが行うカーボン・オフセットの取組について第三者である市民に伝え、理解者の裾野を広げ巻き込み、「自分ごと化する」ために行った創意工夫（イベントの開催やツールの開発等）についてアピールしてください。
- ②人々や社会に与えた影響（行動様式や考え方の変化）について、実際に得られた反響も踏まえてその成果をアピールしてください。

本駅伝大会は、今年で71回を数える歴史ある大会で、県内では秋のスポーツイベントとして認知度が高いイベントです。この大会でカーボン・オフセットに取り組んだことは、県民が環境保全への興味関心を向ける一助になりました。

岩手県農林水産部でも取り組みに注目いただき、県政番組で取り上げていただいたほか、県のホームページでも大会の2週間ほど前から取り組みについて紹介していただきました。

大会1カ月前から放送される、大会関連のTVミニ番組では、「この大会はカーボン・オフセットしている」旨のCMを放送し、当日のラジオ中継内のCMでもカーボン・オフセットに触れるなど、CMでの広報も積極的に行いました。また、主催の岩手日報社様の新聞紙面でも大会告知時にカーボン・オフセット認証ラベルを掲載し周知しました。

大会当日、沿道の観客が走者の応援のために使用する応援小旗に、県産の間伐材を利用したことや、カーボン・オフセット認証ラベルを掲載したことで、カーボン・オフセットへの認知度を上げるとともに、地球温暖化防止の取り組みを地域のイベントでも行っているということにつて、より身近に、より密接した形で理解してもらうことができました。

また、大会関係者が集まる前夜祭では「カーボン・オフセットとは何ですか?」と尋ねてくる方、「間伐材の利用に興味を持った、利用してみたい」という方など話題になることがありました。

大会当日、沿道の観客に応援用小旗を配布すると、持ち手の部分が木製であることに驚いた表情をされる方がいらっしゃいました。環境に配慮して、プラスチック製から変えたこととお話しすると、「捨てるのはもったいないね」「なにかに再利用できるかな」などおっしゃり、きちんと持ち帰っていただきました。少しずつですが、環境保全を身近に感じていただけたと思います。

5. ストーリー性

- ①自らが行うカーボン・オフセットの取組についての「魅力」「面白さ」「ユニークさ」などをアピールしてください。
- ②こうした「魅力」「面白さ」「ユニークさ」について、それを第三者である市民に伝えるために行った創意工夫についてアピールしてください。また、低炭素社会の実現にどのように貢献しているのか、アピールしてください。

地域金融機関の役割として、「環境保全の啓蒙活動をどのように行うか」を検討し、所有するJ-VERを有効に活用すべく、今回の取り組みに至りました。

本駅伝大会は、一般の部と高校の部とに分かれて行われますが、高校生の活躍への期待はもちろん、一般の部においては郡市対抗形式をとっており、岩手県民の多くが地元チームの応援に熱を入れ、地元メデ

ィアで取り上げられる機会も多い大会です。認知度が高いこのようなイベントでカーボン・オフセットに取り組むことは、県民が「カーボン・オフセット」という仕組みを知るきっかけになると考えました。

また、岩手県内で開催されるイベントで排出されるCO2を、岩手県内の森林を間伐したことなどにより創出されたJ-VERでオフセットするという、温室効果ガスの排出を地域で自己完結する「地域解決型地球温暖化対策（地産地消型）」のカーボン・オフセットイベントとしたことで、県民がカーボン・オフセットを「より身近で、より親しみやすい」取り組みと感ずるようPRしました。

さらに、地元の方に親しまれている新聞と県、金融機関が一緒になって、カーボン・オフセットを呼びかけるイベントとすることで、より県民に訴えかけることができると考えました。

TVCM、ラジオCMに加えて、主催者である岩手日報社様や、J-VERを創出した岩手県でも、今回のオフセットの取り組みのPRを新聞紙面、ホームページ等で行っていただき、多くの媒体を活用して、県内外にアピールすることができました。

以上に記載された取組について別途説明資料がございましたら、PDFの場合はメールでお送りいただくか、現物資料を郵送ください。

また、公開可能な商品・サービスの様子がわかる写真を（JPEG等）お送りください。

第2回 カーボン・オフセット大賞 応募用紙一式 送付先およびお問い合わせ先

カーボン・オフセット推進ネットワーク事務局

（担当：入山、井上）

〒東京都港区芝公園 3-1-8 芝公園アネックス 7階

電話 03-5776-1223 ファックス 03-5472-0145

E-Mail award@carbonoffset-network.jp